

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 1 月 7 日 (2021.1.7)

【公開番号】特開 2019-112995 (P2019-112995A)

【公開日】令和 1 年 7 月 11 日 (2019.7.11)

【年通号数】公開・登録公報 2019-027

【出願番号】特願 2017-246534 (P2017-246534)

【国際特許分類】

F 0 4 F 5/44 (2006.01)

F 0 4 D 29/46 (2006.01)

F 0 4 D 29/70 (2006.01)

F 0 4 D 25/10 (2006.01)

F 0 4 F 5/16 (2006.01)

【F I】

F 0 4 F 5/44 B

F 0 4 D 29/46 J

F 0 4 D 29/70 L

F 0 4 D 25/10 3 0 1 C

F 0 4 F 5/16

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 17 日 (2020.11.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

筐体と、前記筐体の内部に吸込口から吸い込まれた空気を高圧空気として送風させる高圧空気発生部と、前記筐体の側面から互いに間隔を設けて放射状に延設した複数の柱状体とを有し、

前記柱状体は、前記筐体の前記高圧空気発生部に連通口を介して連通するダクトと、前記柱状体の底部に前記ダクトと連通した吹出口とを備えており、

複数の前記柱状体の前記ダクトのうち一部を閉塞する遮蔽板と、

すべての前記柱状体の前記吹出口から送風するスポット気流モードと、前記遮蔽板によって複数の前記柱状体のうち一部の前記柱状体の前記吹出口より送風するワイド気流モードとを選択する制御部とを備えていることを特徴とする送風装置。

【請求項 2】

前記制御部は、前記筐体内で前記遮蔽板を回動させ、すべての前記柱状体の前記ダクトと前記高圧空気発生部とを連通させる状態から複数の前記柱状体の前記ダクトのうち一部を閉塞する状態へと切り替えることを特徴とする請求項 1 に記載の送風装置。

【請求項 3】

隣接する前記柱状体との間隔が等しいことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の送風装置。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれか一つに記載の送風装置の前記吸込口に、空気浄化フィルタを備えたことを特徴とする空気清浄機能付送風装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

そして、この目的を達成するために、本発明に係る送風装置は、筐体と、筐体の内部に吸込口から吸い込まれた空気を高圧空気として送風させる高圧空気発生部と、筐体の側面から互いに間隔を設けて放射状に延設した複数の柱状体とを有し、柱状体は、筐体の高圧空気発生部に連通口を介して連通するダクトと、柱状体の底部にダクトと連通した吹出口とを備えており、複数の柱状体のダクトのうち一部を閉塞する遮蔽板と、すべての柱状体の吹出口から送風するスポット気流制御モードと、遮蔽板によって複数の柱状体のうち一部の柱状体の吹出口より送風するワイド気流モードとを選択する制御部とを備えているものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明に係る送風装置によれば、使用者が風の範囲および風速を適宜変更することが可能になる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明に係る送風装置は、筐体と、筐体の内部に吸込口から吸い込まれた空気を高圧空気として送風させる高圧空気発生部と、筐体の側面から互いに間隔を設けて放射状に延設した複数の柱状体とを有し、柱状体は、筐体の高圧空気発生部に連通口を介して連通するダクトと、柱状体の底部にダクトと連通した吹出口とを備えており、複数の柱状体のダクトのうち一部を閉塞する遮蔽板と、すべての柱状体の吹出口から送風するスポット気流モードと、遮蔽板によって複数の柱状体のうち一部の柱状体の吹出口より送風するワイド気流モードとを選択する制御部とを備えていることを特徴とするものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

その一方で、ワイド気流モードを選択した際は、遮蔽板によって複数の柱状体のうち一部の柱状体の吹出口から送風されるため、筐体に近い側においても、吹出口が密にならず、送風装置の筐体近傍の下流領域に気流が集まらないため、スポット気流モードを選択した場合と比較し、送風装置の筐体の外周側に気流が流れるようになる。そのため、送風範囲が大きくなり、比較的低風速の気流が創出されることになり、大人数の使用者が涼感を得ることが可能になる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１８】

また、本発明に係る送風装置では、制御部は、筐体内で遮蔽板を回動させ、すべての柱状体のダクトと高圧空気発生部とを連通させる状態から複数の柱状体のダクトのうち一部を閉塞する状態へと切り替えることを特徴とするものである。

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２０】

また、本発明に係る送風装置は、隣接する柱状体との間隔が等しいことを特徴とするものである。

【手続補正８】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２２】

また、本発明に係る空気清浄機能付送風装置は、上記した送風装置の吸込口に、空気浄化フィルタを備えたことを特徴とするものである。